

令和 7 年度第 2 回東秩父村上下水道事業審議会議事録

日 時：令和 8 年 1 月 1 4 日（水）13：30～15：15

場 所：東秩父村役場 2 階大会議室

1 開会（13：30）

建設課長

2 あいさつ

眞下会長

3 議事

進行 眞下会長

（1）コンパクト浄化槽の検討について

担当者より説明

質疑

コンパクト浄化槽において、村では維持管理費が高額とあるが、通常の浄化槽とコンパクト浄化槽で「業務委託料に差異を設けていない。」という自治体があるが、どういうことであるか。

回答

以前、当村から業務委託している事業者に見積もりを徴したところ、小型であることから手間が生じる等の理由で通常の浄化槽より高額な金額が示されている。さらに、小川町がコンパクト浄化槽を導入しており、業務委託料に差異を設けて事業を実施しており、当村と同様の事業者になるため、通常の浄化槽とコンパクト浄化槽の業務委託料を同額にすることは困難であると考えている。

質疑

現行の浄化槽は平成 1 5 年度から整備されており、2 0 年以上経過するものもあるが、更新する際には、コンパクト浄化槽を採用することになるのか。

回答

現行の浄化槽の耐用年数は 3 2 年を設定しており、当初整備したものは令和 1 7 年度に耐用年数を迎えることになる。今後、現行の浄化槽をどのように更新していくことがよいかについて、情報をまとめた段階で当審議会で協議、検討していくことになると考えている。

(2) 東秩父村簡易水道事業施設整備計画の着手について

担当者より説明

質疑

以前、説明のあった分散型システムや運搬送水等の給水方法については、検討しているのか。

回答

今回は、維持継続していくべき重要な水道施設を対象に更新整備を実施していくことで説明しましたが、給水人口の少ない地域での給水方法についても別途検討しているところであり、情報がまとまりしだい、当審議会で説明はさせていただきたいと考えている。現在検討している給水方法については、小規模浄水場や小規模分散型システムであるが、運搬送水についても選択肢として挙げられる。

質疑

給水区域の拡張を図ることで緊急時のバックアップ配水が可能になるとのことであるが、現在は標高の高い箇所に配水池を整備し、自然流下で対応しているところであるが、新たなポンプ施設を整備する必要性が生じ、多大な経費が生じるのではないか。

回答

白石浄水場から大内沢全域を給水対象にすることではなく、現在のポンプ施設を活用し、白石浄水場からの配水を可能とするものである。ただし、県道沿いに1箇所はポンプ施設を新たに整備する必要性があると見込んでいる。

質疑

分散型システムによる給水の説明がありましたが、その設備を導入予定の地域に配水管の更新工事は計画しているのか。

回答

分散型システムを検討している地域での配水管等の更新工事は現在は計画していない。

質疑

物価高騰対策交付金により水道料金等を減免してきたが、令和8年度は計画しているのか。

回答

令和８年度において、水道及び浄化槽使用料での減免は計画していないが、お米券や地域応援商品券を配布することで計画している。

(３) 令和８年度公営企業会計予算概要説明書について

担当者より説明

質疑なし

５ その他

次回の開催日程 令和８年７月頃を予定している。

６ 閉会（１５：１５）

建設課長